

# 一神教と多神教をめぐる ディスコースと リアルポリティーク

1

## Overview

- 日本における動向
- 一神教と多神教をめぐるディスコース
- オリエンタリズム、オクシデンタリズム、リバーズ・オリエンタリズム
- 見えざる偶像崇拜
- 構造的暴力と直接的暴力
- まとめ

2

## 日本における動向

### ・梅原 猛

– 「私は、かつての文明の方向が多神教から一神教への方向であったように、今後の文明の方向は、一神教から多神教への方向であるべきだと思います。狭い地球のなかで諸民族が共存していくには、一神教より多神教のほうがはるかによいのです。」

(『森の思想が人類を救う』小学館、1995年、158頁)

3

## 千と千尋の神隠し (*Spirited Away*)



4

## 千と千尋の神隠し (*Spirited Away*)



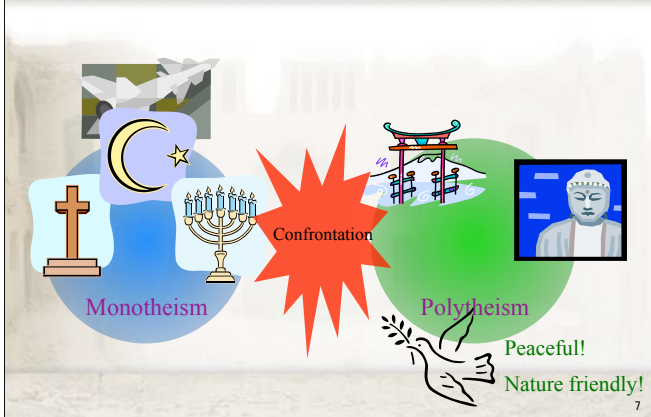
5

## 日本における動向

- 「『千と千尋の』精神で一年の初めに考える」 (『朝日新聞』2003年1月1日、社説)
- 「文明の対立」が語られている。背景にあるのはイスラム、ユダヤ、キリスト教など、神の絶対性を前提とする一神教の対立だ。(中略) いま世界に必要なのは、すべて森や山には神が宿るという原初的な多神教の思想である。そう唱えているのは、哲学者の梅原猛さんだ。古来、多神教の歴史をもつ日本人は、明治以降、いわば一神教の国をつくらうとして悲劇を招いた。そんな苦い過去も教訓にして、日本こそ新たな「八百万の神」の精神を発揮すべきではないか。

6

## 一神教と多神教をめぐるディスコース

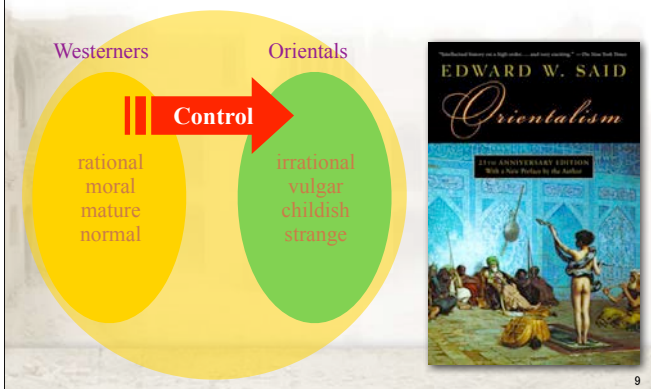


## 一神教と多神教をめぐるディスコース

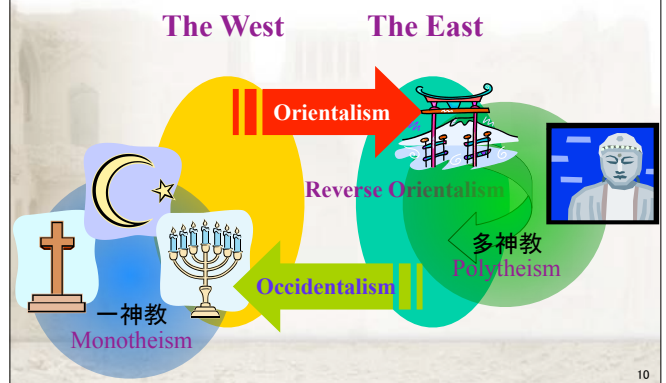
1. ユダヤ教・キリスト教・イスラームは唯一の神を信じる宗教であるから、対立・衝突を避けることができない。
2. 戦争や自然破壊など、現代世界の問題は一神教（文明）に帰するところが多く、日本の多神教（文明）こそが一神教的思考の限界を乗り越え、問題解決に貢献すべきである。
3. 一神教は排他的・独善的・好戦的・自然破壊的であるのに対し、多神教は寛容・協調的・友好的・自然と共生的である。

8

## オリエンタリズム (Orientalism)



## Occidentalism, Reverse Orientalism



## 見えざる偶像崇拜



## 偶像崇拜の現代的意味

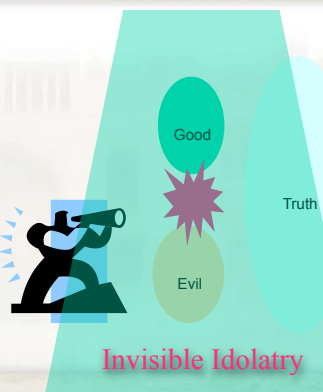
### ・パウル・ティリッヒ (Paul Tillich)

—偶像崇拜は、予備的関心を根源的関心にまで高めることである。本質的に制約を受けているものを無制約的なものと考え、本質的に部分的なものを普遍的なものにまで高め、本質的に有限なものに無限の意味を与える（現代の宗教的民族主義の偶像崇拜は最も良い例である）（『組織神学』原著1951年）。

12

## リアルポリティークにおける偶像崇拜

- 現代世界においては、すべての出来事が視覚的なイメージに変換される。
- 作られた「偶像」は真実をあらわすより、むしろそれを隠す。



13

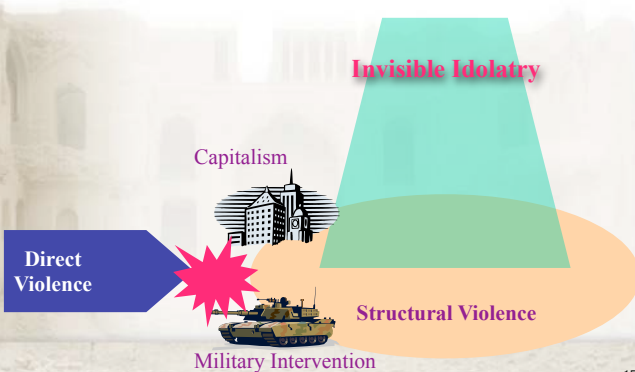
## 「悪」との戦い

### • ロバート・ベラ (Robert N. Bellah)

- ブッシュの言葉は、奇妙なことに、オサマ・ビン・ラディンの言葉を写しているかのようである。ビン・ラディンも自分自身が「悪」と戦っていると信じているのだ。このことは長引くテロに対する戦争の中で、われわれが多くの点において、敵対者に似てくるということを暗示している。

14

## 構造的暴力と直接的暴力



15

## 現代における偶像破壊 (iconoclasm)

### • バーミヤンの仏像

- 見える「偶像」として

### • The World Trade Center

- 資本主義の富と暴力を体現した「偶像」として

### • The Pentagon

- 軍事力を体現した「偶像」として

絶望と歓喜を引き起こす



16

## まとめ

- 日本における一神教と多神教をめぐるディスコースは、**オキシデンタリズム**と**リバース・オリエンタリズム**の複合体 (→見えざる偶像崇拜) として、特定のイメージを拡散させ、**構造的暴力**となる危険性をもっている。
- 軍事的攻撃 (**直接的暴力**) により「悪」を根絶することを目指すよりも、**構造的暴力** (→見えざる偶像崇拜) を認識し、それを抑制・改善していかなければならない。

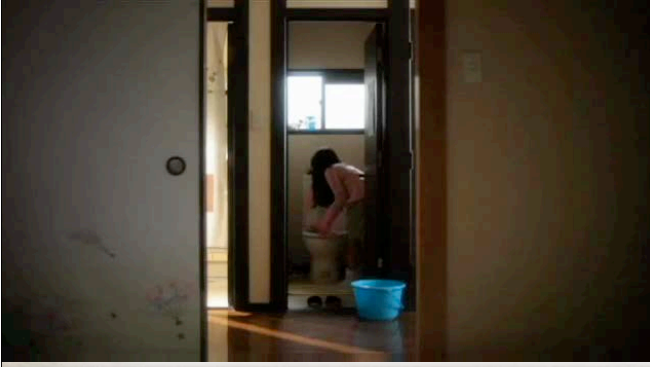
17

## まとめ

- 一神教的な考え方と多神教的な考え方を排他的・敵対的にならない形で関係づける必要がある。

18

## トイレの神様 (植村花菜)



19